

ハスモンヨトウ情報第2号

平成23年9月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

- (1) ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、碧南市では7月第4半旬に発生ピークがありましたが、7月第6半旬以降は平年よりやや少なく推移しています。一方、長久手町では平年よりやや多く推移するなど、地域によってばらつきがあります（図1）。
- (2) 8月下旬のダイズにおける被害株率は、西三河の一部で高いほ場があるものの、全体的には平年よりやや少ない状況です。
- (3) 8月下旬現在、キャベツほ場でのハスモンヨトウ幼虫の発生量はやや少ない状況ですが、気象予報によれば9月は気温が高いと予想されており、今後急増する可能性があるため注意してください。

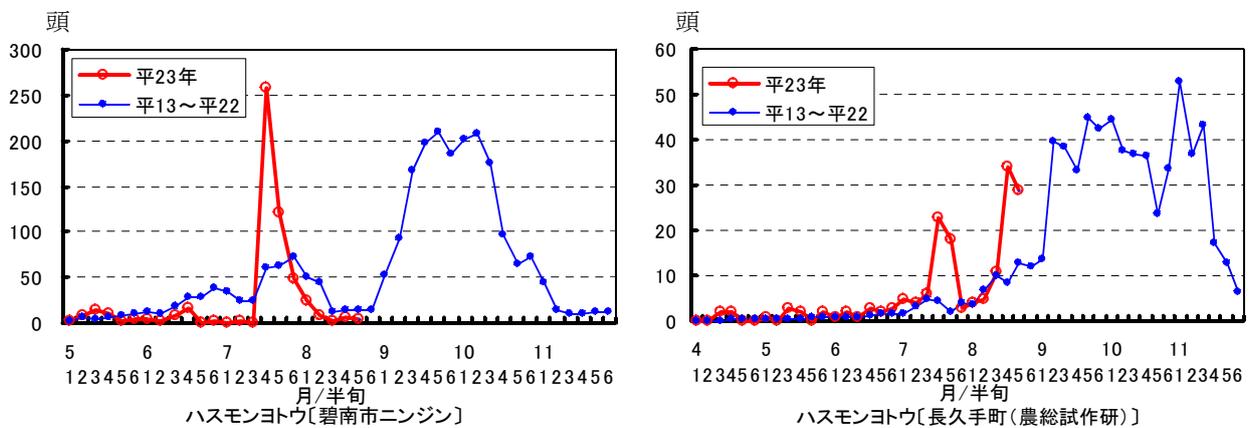


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

2 防除対策

- (1) ハスモンヨトウは残暑が厳しい年に多発する傾向があり、特に、降雨が少ない場合には大発生することがあるので、早めの防除を心がけましょう。中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、若齢幼虫期（分散前）に防除しましょう。
- (2) 有機りん剤、合成ピレスロイド剤などに対して感受性が低下している個体群が確認されているので、防除薬剤の選定に当たっては注意してください（表）。
- (3) ダイズほ場で白変葉が目立ち、幼虫の発生が多い場合は、直ちに防除しましょう。
- (4) イチゴでは、新芽の部分を好んで食入するため、見つけにくいので、新芽の部分を開いて寄生を確認しましょう。



図2 分散前のハスモンヨトウ若齢幼虫



図3 ハスモンヨトウ中齢、老齢幼虫

表 ハスモンヨトウの主な防除薬剤

作物名	薬剤名	薬剤の系統(注)
ダイズ	ロムダンフロアブル	a
	ラービンフロアブル	b
	マッチ乳剤	c
	トレボンEW	d
	トルネードフロアブル	e
	マトリックフロアブル	a
キャベツ	マッチ乳剤	c
	アフーム乳剤	f
	プレオフロアブル	g
	トルネードフロアブル	e
	コテツフロアブル	h
	フェニックス顆粒水和剤	i
ハクサイ	アタブロン乳剤	c
	ラービンフロアブル	b
	アニキ乳剤	f
	フェニックス顆粒水和剤	i
イチゴ	ラービンフロアブル	b
	プレオフロアブル	g
	カスケード乳剤	c
	コテツフロアブル	h
	トルネードフロアブル	e
	アフーム乳剤	f
キク	ゼンターリ顆粒水和剤	j
	マトリックフロアブル	a
	フェニックス顆粒水和剤	i

注) 薬剤の系統 : a= I G R 剤 (脱皮促進) 、 b=カーバメート系、 c= I G R 剤 (脱皮阻害) 、 d=合成ピレスロイド系、 e=オキサダイアジン系、 f=マクロライド系、 g=プロペニルオキシフェニル系、 h=ピロール系、 i=ベンゼンジカルボキサミド系、 j= B T 剤